

目次

「思い」を言葉と身体で表現することの意義 —障がいのある子どもと学生、それぞれの実践から— ……………	小南佳世(1)
子どものためのアトリエについての実践と考察 ……………	佐藤有紀(11)
保育生活に根ざした歌唱活動に向けて —保育者間の対話と協働による実践例から— ……………	津田奈保子(21)
ステンレス素材による具象表現 —作品制作を通して— ……………	長谷川政弘(33)
交通安全歌謡史考 —「大大阪」時代の「交通地獄」と「交通唱歌」— ……………	山本耕平(45)
大阪芸術大学動物ジオラマ館芸大 Zoo をつくる ……………	若生謙二(59)
音楽を「観る」ことと美術を「聴く」こと —学校教育の中の「芸術」 ……………	前川陽郁(1)
投稿規程 ……………	(73)

編集後記

この度、『芸術と教育』第10号が完成しました。ご寄稿くださった方々、査読にご協力いただいた方々、編集作業、印刷製本をご担当いただいた多くの方々に厚く御礼申し上げます。

前回『芸術と教育』第5号の編集後記を書かせていただいたのは2020年度の末、まさにコロナ禍の最中でした。日本中が先の見えない不安に覆われ、学校教育も多大な影響を受けました。

現行の学習指導要領は2021年度に中学校において全面導入され、5年経ってようやく落ち着いてきたかと思いきや、早くも昨年(2025年)9月25日、中央教育審議会(教育課程企画特別部会)により次期学習指導要領に向けての「論点整理」が公表されました。すでに教育雑誌等では特集記事が組まれ、関連の書籍も出ていますが、その中に今回の改訂は「明治期以来の教育システムを問い直すもので『150年に1回の大改訂』といっても過言ではない」(佐藤明彦『学習指導要領はどう変わろうとしているのか』2025年 東洋館出版社)という言説もありました。激動する世界の中で、未来の日本の教育を担う学生たちをどう育てていけばよいのか、その責任の重さに気が遠くなるようでした。このような時代であるからこそ、教職課程に携わる私たちも学び合い、ともに困難を乗り越えていくことが大切だと思います。

『芸術と教育』は創刊以来、これまで多くの先生方に研究成果を発表していただき、成果を共有する場となってまいりました。これからもよりよい論文集として、皆様の研究・教育実践の一助となれば幸いです。今後ともご協力賜りますよう、編集委員会一同心よりお願い申し上げます。

文芸学科 龍本那津子

大阪芸術大学教員養成研究論集 芸術と教育 第10号(2026.3)

印刷 2026年3月31日
発行 2026年3月31日

編集 『芸術と教育』編集委員会

大阪府南河内郡河南町東山469(〒585-8555)

電話 0721(93)7907

FAX 0721(93)5542

発行 大阪芸術大学 教務部教職相談室

印刷 株式会社田辺プリント社